

科目名	電波伝送学Ⅱ Antennas and Propagation II			担当教員	真鍋 克也		
学年	5年	学期	前期	履修条件	選択	単位数	2
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	11T05_30220	単位区別	履修
学習目標	電磁波はアンテナからどのように送受信されるか理解し、それに関連する電磁界計算法を学び、簡単なアンテナ特性が計算できるようにする。また、電磁波の大気、電離層、宇宙空間伝搬特性を理解すると共にその利用法を学ぶ。						
進め方	本科目は4年の電波伝送学Ⅰに続くもので、各種アンテナの原理と電波の伝わり方をテキストの内容にほぼ沿って講義する。各章末の演習問題をレポートして課す。各自が行った解答を指名された者が黒板に示し、添削を行った後、提出する。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 接地アンテナの実効高、放射電界、放射電力(2) 2. 接地アンテナの形式、効率(2) 3. 接地アンテナの垂直面指向性、ループアンテナ(2) 4. 無線方位測定、アドコックアンテナ(2) 5. 演習問題(2) 6. 相互放射インピーダンス(2) 7. アンテナ系の利得、大地上の半波長アンテナ(3) 8. クォーター試験(1) 9. 試験問題の解答、ビームアンテナ(2) 10. 進行波アンテナ、八木アンテナ(2) 11. 演習問題(2) 12. 折り返しアンテナ(2) 13. 垂直偏波全方向性アンテナ(2) 14. 水平偏波全方向性アンテナ(2)			接地アンテナの解析法について理解する。 D2:1 ループアンテナの指向性を理解する。 D3:2 相互放射インピーダンスが説明できる。 D2:3 定在波アンテナ、進行波アンテナの違いを理解する。 D2:1-3 八木アンテナの原理を理解する。 D2:1 実用されているアンテナを知る。 D2:1 折り返しアンテナ、八木・宇田アンテナ、ヘリカルアンテナ、進行波アンテナ、その他 VHF や UHF アンテナの知識を得る。 D2:1-2, D3:1-2			
	[後期中間試験](1)						
	15. 試験問題の解答、ヘリカルアンテナ(2) 16. 対数周期アンテナ、コーナレフレクタアンテナ(2) 17. 等方性アンテナ、アンテナの利得(2) 18. 演習問題(2) 19. 立体アンテナ、パラボラアンテナ(2) 20. カセグレンアンテナ、グレゴリアンアンテナ、オフセットパラボラアンテナ(2) 21. ホーンレフレクタアンテナ、電波レンズ(2) 22. スロットアンテナ(2) 23. スリークォーター試験(1) 24. 試験問題の解答、無給電アンテナ、演習問題(3) 25. マイクロストリップ線路(2) 26. 電波の伝搬形式、各周波数帯の電波伝搬特性(2) 27. 山岳回折、電波の見通し距離(2) 28. 大気による減衰(2) 29. 電離層伝搬(2)			パラボラアンテナ、カセグレンアンテナ、スロットアレイアンテナ、レンズアンテナ、誘電体アンテナなどのアンテナの知識を得る。 D2:1-2, D3:1-2 アンテナの利得の定義が説明できる。 D2:3 ストリップ線路について理解する。 D2:1, D4:1 電波伝搬の基礎知識の習得。 D2:1-3 大気における電波伝搬の概要、地上波伝搬、山岳回折、フレネルゾーン、大気による屈折などについて理解する。 D2:1-3			
	前期末試験						
	30. 試験問題の解答、授業評価アンケート(2)						
評価方法	クォーター試験・中間試験・スリークォーター試験・期末試験を約 80 %、レポートを約 20 %の比率で総合評価する。						
履修要件	特になし						
関連科目	電気磁気学Ⅰ（3年）→電気磁気学Ⅱ（4年）→電波伝送学Ⅰ（4年）→電波伝送学Ⅱ（5年）						
教材	教科書：教員作成プリント、参考書：安達三郎、佐藤太一 共著「電波工学」森北出版						
備考	本科目は、第1級陸上特殊無線技士の学校認定に必要な科目である。						